２０１５年１２月２３日(毎月１８回1・3・5・6・7・9の日)　通巻 6880 号　1983年7月19日　第３種郵便物許可　頒価50円（1）

第34号

SSTK

さくら草だより

発行人　埼玉県障害者団体定期刊行物協会
〒332-0011　川口市元郷1-10-13
電話　048-225-1625

編集人　社会福祉法人さくら草
〒336-0015　さいたま市南区太田窪3501-2　電話　048-813-7426　Fax 048-886-6301
HP　http://www.sakuraso.net/　E-mail　info@sakuraso.net

『WITH ONE』さくら草作品展

今年もデイセンターさくら草の近隣にある『cafe & sweets WITH ONE』様にて、作品展を開催しました。

利用者さんの制作した作品は展示されることにより何倍、何十倍にも輝き、どの作品からも強いエネルギーやメッセージが伝わってきました。また様々な方に作品を見て頂くことで利用者さんにとっても自信や喜びに繋げることができたと改めて感じました。

もちろん、カフェとスイーツを楽しんだ方もいましたが、とある利用者さんは作品展を一か月以上前から待ち望んでいました。期待や希望が次第に不安に変わり、当日にお店の前まで行ってみたものの中に入れず

お店の外から作品展を感じることになりました。

思いがたくさん詰まった作品展、足を運んでくださった皆様、ご協力してくださった『WITH ONE』様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。　（福岡）

さくら草だよりは『晃新印刷』様のご厚意により印刷しております

デイセンターさくら草・アトム
（折り～封入作業を担当し発送しています）

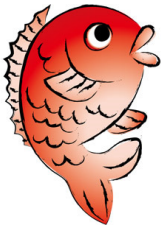
２０１５年１２月２３日（毎月 18 回 1・3・5・6・7・9 の日）　通巻 6880 号　　1983 年 7 月 19 日　第 3 種郵便物許可　頒価 50 円(2)

サポートゆず

～てんハウスぐりんの２階食堂にて～

説明を熱心に聞くみなさん

11 月 13 日のゆずヘルパー会議にて、スタッフ２４名でてんハウスぐりんを見学してまいりました。利用者さんの住まいとして、安心・安全・安楽に過ごせるよう建物の設計から家具の選定、設置、食事の提供のしかた、等細かい配慮があり、さらに、ミニイベント等楽しく生活できるよう工夫されている事などいろいろ教えていただきました。みなさん熱心に見学され、建物がきれいで明るい、部屋が広々している等の感想がありました。



新年を迎え、ゆずの利用者さんの成人を迎えられたかたが、いらっしゃいます。小さいころよりのお付き合いのかたもいらっしゃって、感慨深いものがあります。本当におめでとうございます。皆さん、これからもながくゆずを活用していただけら嬉しいです。

～新成人の皆様～

大澤統之介　様	大澤　亮　様
古賀 和樹　様	小宮 太史　様
竹村 尚也　様	高宮 雅史　様
富澤　創　様	永山 慎也　様
西川 将治　様	横山 彩菜　様

おめでとうございます

＜デイセンターさくら草・アトム活動報告＞　（２０１５年　１１月１日～２０１５年１２月３１日）

１１月２日　女性福祉従事者研修（奈良、沼澤）
４～６日　松下福祉基金民間社会福祉施設職員国内視察（蓮見）
１０～１１日　第 100 回摂食指導（基礎・実習）講習会（天川）
１２、２０日、１２月２、７、１５日　トップマネジメント研修（市川）
２５日　インフルエンザ予防接種（デイセンターアトム）
１４、１８日　移送サービス運転協力者認定講習会（平田）
２５日　インフルエンザ予防接種（デイセンターさくら草）
２５～１２月７日　Ｗｉｔｈ　Ｏｎｅ作品展
１２月７～８日　サービス管理責任者研修Ⅰ（佐藤剛）

健康診断―年２回　ヘアカット（理・美容）　通院介助　体重測定―毎月　誕生会―各誕生月　音楽療法―月１回アロマセラピー―月１回
みんなのアトリエ―月２回　静的弛緩誘導法訓練会参加―月１回　陶芸―月２回　家族会―月１回　さくら草せっけん教室－月１回

２０１５年１２月２３日（毎月 18 回 1・3・5・6・7・9 の日）　通巻 6880 号　　1983 年 7 月 19 日　第 3 種郵便物許可　頒価 50 円(3)

サポートさくら草

応急手当講習　実践編を行いました

１２月１０日木曜日、ヘルパー会議とあわせて「応急手当講習会　実践編」を行いました。前回は基本編。今年度は、よりサポートの利用者さんを念頭においての実践編となりました。

講師は現役救急救命士２名＋現役救急隊員１名の計３名と豪華な布陣。楽しくわかりやすいを目的に、最大限の効果を発揮できるよう事前準備をしてきてくださいました。

サポートの利用者さんを具体的にイメージしつつ

① 胸骨圧迫
② 止血法
③ 異物除去
④ ＡＥＤ使用法

に重点をおいて学びます。特に胸骨圧迫では具体的に「背中の側彎が著しい〇〇さんには、どのように圧迫を加えたらよいのだろう？」と実際に担当することの多い利用者さんを想定しての質問も多数でました。側彎のカーブにあわせて、ちょっと斜めの方角から背骨に垂直になるように力を加えるとよい、浮いた背中には座布団やバスタオルを詰めるとよい等々の、まさに現場に即した実践的な指導になりました。

痙攣発作の時の禁忌事項として、ゆする・たたく・抱きしめる・大声をかける・口中に詰め物をするなどは、するべきではないこと。そしてそれは、なぜしてはいけないのか？も詳しく勉強できました。

どの程度の状態になったら救急車の要請をするべきか？そのときの確認事項として、発作の種類や発作継続時間の測り方も共通認識とすることが出来たと思います。

ＡＥＤの使用方法も改めて学びます。心臓に電気ショックを与えると聞くと、そのショックで心臓が復活するようなイメージを覚えますが、ＡＥＤはあくまで「けいれん状態でポンプ機能を失った心臓に対して、けいれんを取り除くための医療器具」であるということ。ＡＥＤの使用で心臓の動きが復活するわけではないこと。なのでＡＥＤだけではなく胸骨圧迫も必要になるケースが多いこと。これは前回も学んだ知識ではありますが、改めて教わることにより、一層の理解が深まりました。

救急車を要請してから救急隊の到着までの数分間、近くにいる我々が応急手当てを行うことで社会復帰率が２倍近くにあがるという事実には驚きました。早期の処置がいかに重要であるかがわかります。

今回の知識を実際に役立てるときが来ないよう祈ります。しかし、万が一の時には冷静に対処できるべく、知識と実践の更新を怠らないようにしたいと考えています。　　《サポートさくら草　佐々木千》

２０１５年１２月２３日（毎月 18 回 1・3・5・6・7・9 の日）　通巻 6880 号　　1983 年 7 月 19 日　第 3 種郵便物許可　頒価 50 円(4)

てんハウスぐりん

寒さも本格的になり、体調を崩しやすく、体調管理が難しい時期になってきました。
入居者の方々が快適に生活出来るよう、各階に空気清浄機・加湿器を2台ずつ設置して室内環境の整備を行なっています。体調を整えるため、バランスの摂れた食事の提供、良質な睡眠を確保するための寝具の調整、室内の適切な温度管理等に取り組んでいこうと思っています。今後、感染症の流行する時期になるので、看護師と連携して未然に防げるよう対策を含めて検討していきます。

《てんハウスぐりん職員紹介》
12 月から新たに看護師2名が配属されました。

看護師　柳田　晃
昨年、25 年間勤めていた北海道の国立病院を定年しました。出身は北浦和ですが、久しぶりの浦和生活、雪がなく暖かく感動しています。重心病棟の経験は 6 年ありますが、病院と違う雰囲気、仕事内容に少し戸惑っています。一所懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。

看護師　曽田　恵子
12 月より、お世話になります。静岡県出身です。ここ数年、物忘れが多く言葉もすぐに「あれ」・「それ」が増えたり、一歩あるけば何をしようとしたか忘れることが悩みです。ご迷惑等、お掛けすることが多いかと思いますが宜しくお願い致します。

クリスマス会　2015/12/21
てんハウスぐりんにて、入居者と職員で楽しむイベントとしてクリスマス会を実施することになりました。
右の写真は一緒に手作りのリースを作成しています。
詳細については次号にてご報告させていただきますので、お楽しみに！！

家族会の皆様をはじめ、多数の関係者の方々が、てんハウスぐりんの見学に来訪していただきありがとうございました。お陰様で、てんハウスぐりんも少しずつ自分の家らしくなり、個性も見えてきました。笑顔を大切に入居者の方々の笑いが絶えないアットホームな雰囲気の家にしていこうと思っております。今後も宜しくお願いいたします。（木田）

南区障害者生活支援センター　あみ～ご

～ コーディネーター連絡会議をご存じですか？ ～

「コーディネーター連絡会議」障害者生活支援センター職員以外はあまり聞き慣れない名前かもしれません。「さいたま市コーディネーター連絡会議設置要綱」に基づき、10 区の障害者生活支援センターを始め障害福祉課、障害者総合支援センターなどの職員によって構成され、相談支援等に関わる各機関が連携し障害者の自立した地域生活における支援の推進を目的として設置されています。
その中で、障害者生活支援センターが中心となって運営している、各委員会・部会についてご紹介したいと思います。日常の相談支援業務以外での活動を知るための一助になれば幸いです。

①調査研究委員会

障害者生活支援センターでは、「誰から」「どのような手段で」「どのような内容の」相談があったかを統計的にカウントし、毎月集計しています。そこから読み取れる傾向や課題を抽出し、市の障害福祉政策に反映させるための検討や提起を行なっています。
最近は相談内容が多様化・複雑化しており、データのみで分析することが難しくなっています。日々利用者と向き合う中で聞かれる悩みや困りごと、感じ取った潜在的なニーズまで、障害者の「生の声」を施策に反映するために日々活動しています。

②広報委員会

必要な人に必要な支援が行き渡るよう、障害者生活支援センターの認知度の向上を図るための活動を行なっています。
広報誌「ひとと人」や、障害者生活支援センターパンフレットの企画編集、「市民の集い」などイベントでの広報活動の企画などを行なっています。
特に「ひとと人」は楽しみながら役立つ知識・情報を得られるよう内容を工夫していますので、ぜひご一読ください。

③教育研修委員会

どのセンター・相談員でも同様に質の高い相談支援が行なわれるよう、事例検討会や学習会などの企画・運営を通じて、相談支援の質の向上を図るべく活動しています。
事例検討会では困難ケースに対し、いかにして必要な支援に繋げ、継続的な支援体制を構築していくか、経験の浅い相談員もベテラン相談員も一緒に知恵を出し合い考えることで、視野を広げる機会になっています。また学習会では障害福祉分野だけに囚われず、幅広い知識を身に付けられるような企画を立案しています。

④権利擁護部会

虐待・差別事案を関係機関と連携し早急に対応するため、事例の集積と適切な対応について検討しています。起こってから対応するのではなく、常にアンテナを張り、「グレーゾーン」で動き出すことで事前に芽を摘み取ることに重点を置いて啓蒙活動を行なっています。案外多いのは虐待や差別に該当するとは知らなかったというケース。皆が気持ちよく過ごせるよう、日常の何気ない言動を時々振り返ってみることが必要ではないでしょうか。

南区障害者生活支援センター　あみ～ご
TEL048-866-5098　/FAX048-866-5128
お気軽にご相談ください

社会福祉法人さくら草　新役員紹介　平成 27 年 12 月 10 日～平成 29 年 12 月 9 日）

◎　理事、監事、評議員（**敬称略**）

理事・評議員　山本宏（理事長）、小林昇（理事長職務代理者）、小泉康代、野本邦雄、仲矢京子、大熊健支

監事　柴田洋彌、塩野嘉幸

評議員　上田桂子、鈴木恵子、赤池栄子、程塚則明、江端みよし、山本和子、丸中愉可

◎　**退任された役員の紹介**

中江利明様（監事）、渡邉典子様（理事）塩畑秀夫様（評議員）のお三方が退任されました。法人設立以来 10 年の長きにわたり当法人を支えてくださいました。多くのご助言やお導きを賜りましたことここに感謝申し上げます。

デンマーク海外研修報告

広大な敷地の中にある一つの工房

今回の松下福祉基金社会福祉海外派遣研修は、福祉の先進国であるデンマークの３施設の視察です。事前の結団式では20名の団員と顔合わせし、現地での役割を決め、後は出発の準備を各自わくわくしながら行い当日に備えました。

高齢者入所施設、森の幼稚園、知的障害者通所施設の視察を２日間にかけて行いましたが、軽度の知的障害を持つ「アクセンター　ホイヤゴー」という通所施設について少々詳しくご報告致します。

70 ﾍｸﾀｰﾙの広大な敷地の中に１０の工房が点在します。食堂、農業、木工、金属加工、芸術、ゴーカート等々。その機材、加工技術は専門性を深め、木工作業は森へ行き木の伐採を見学し、どのように加工され作業場に運ばれるかという「行って、見て、触って」の過程を体験することから始めるそうです。　そして特徴的で面白い試みが５年前から始めている、「証明書の発行」です。

敷地のいたるところに素敵なオブジェ！

証明書の説明をするサンタのような施設長

それは「掃除機を使える」「車のリフトを使える」など１２０種類あり、安全面と使いかたを学び、試験を受けて証明書の発行がなされるとのこと。私たちが持つ免許サイズのものと、自宅に掲げておける立派な証明書です。それはみんなのモチベーションにつながり、家族や自宅に遊びに来た知人に自慢でき、より障害に対する理解を深めてもらう一役にもなっているとのことでした。

私たちはここでお昼をごちそうになったのですが、これも日々仲間の昼食を作っている通所者の方たちが大量のサンドイッチを作り待っていてくれたのです。みんなで食後に日本のうたのプレゼントをしたのですが、「働いている人の仕事を認め、感謝を示し価値を認めることがとても大事です。どうぞ唄ってください！」と言われた施設長の言葉が心に沁みました。

高齢者入所施設では「入所ではなく住所が変わっただけ」だからその人個人の生き方を尊重する。森の幼稚園では本物の木工用具を用い「危険のリスク」を学び「危険だからやめなさい」ではなく安全に遊べる方法、自分たちで解決できるツールを与えるとのことでした。どの施設のお話でもデンマークの歴史と文化が「自主、自立」の発想を生み、そこがベースになっていることを強く感じました。デンマークでは社会保障制度、福祉の施策などが進んでいると言われています。私はそれを学ぶと同時に現場で働く者の立ち位置を深く考えさせられました。また日本を離れたことにより日本人の柔らかさ、やさしさを感じることができ初海外をこのような研修で経験できたことに感謝し、今後に活かしていきたいと思います。

自らスープをふるまうあったかい施設長と
生徒のように待つ団長

団員　丸中愉可

編集後記

家族と過ごすお正月。自分が幼いころのビデオを見ました。たくさんの人から注いでもらったあふれる愛情を感じました。今度は私の番です。(K)